



## 1 地区の概況

相鉄線瀬谷駅をはさんで南北に広がる住宅地。人口約6,300人。5つの自治会町内会があり、地区の総世帯数約3,080のうち自治会町内会加入は約2,500世帯。15歳～64歳の人口割合と単身世帯の割合が区内12地区で最も高い。瀬谷駅北口には商業施設が集中し、また地区内各所で集合住宅が増加している。

## 2 第1期・第2期で取り組んだ主な活動や事業

### 1. 町ぐるみ健康活動の推進

瀬谷四丁目町内会で実施している「はらっぱ体操」を連合全体の取組へと広める等、各自治会町内会の健康活動の取組を連合として支援した。

### 2. 「高齢者・障害者等支援」の推進

WAT(高齢者等を対象としたさりげない見守り活動)を実施した。取組を進める中で、地区内の新聞販売店や交番へも取組を説明し、「いつもと様子が違う」等異変に気が付いた際WATの役員に連絡を入れてもらうこと等の協力関係を築いてきた。

### 3. 「情報共有と場づくり」の推進

「あじさい会(ひとり暮らし高齢者の昼食会)」、「ふくわ会(高齢者お茶飲み会)」、子育ておかあさんの集い「おいでおいで」、「ふれあいサロン(お茶飲み会)」等、町内会館の活用により、地区内での地域活動の情報共有をはかり、住民が寄り合える場づくりを進めた。

## 3 第3期計画に向けての課題

### 1. 健康長寿であることを共有できる取組を進める。

福祉活動の前提として、健康長寿を促進する取組を進めていく必要がある。

### 2. WAT運動の実績を踏まえ、見守り活動の地域への浸透と普及を図ってゆく。

“さりげない”見守りから、“一歩踏み込んだ”見守り体制への移行を検討する。

### 3. 活動を支える人の存在は欠かせず、人材の育成は大きな課題。

引き続き地域活動の担い手の人材育成に努めていくことが課題。

## 4 推進母体

### 地区社会福祉協議会の役員会を推進母体として活動

※地区社会福祉協議会の役員は、各自治会町内会、民生委員・児童委員、保護司、更生保護女性会、スポーツ推進委員、青少年指導員、子ども会、保健活動推進員などの代表が構成メンバーとなっている。

## 5 第3期計画

### 目標 1. 健康長寿をともに喜び合える地域にしてゆこう。

行動目標:健康長寿を促進する活動や交流の場づくりを進めてゆく。

行動プラン:

- ①運動の裾野を広げ町内会・自治会単位で交流できるサロンなどを工夫して作る。
- ②健康体操・体を動かす運動を地区全体に普及できるようにする。
- ③日常の中にお年寄りや若い人や子どもたちが一緒に交流できる場を創出する。

### 2. 地域から幅広い見守り活動と支援を推し進めよう。

行動目標:①高齢者 ②障害者 ③児童への見守りと支援

WAT運動の定着と充実を図り、災害時にも活かしてゆく。

#### WAT運動とは?

W (Watching の略) …注意深い見守り

A (Action の略) …行動する

T (Team の略) …チーム(仲間)



行動プラン:

- ①これまで培ってきたWAT運動の経験を踏まえ、一人暮らしの高齢者の見守りから二人暮らしの高齢者世帯も対象として、幅と厚みを加える。
- ②地域の障害者施設や団体とも連携を取り、交流と催しを形成する。
- ③児童の下校時見守りから顔を覚え、日常の中でもさりげない見守り。

### 3. 地域から友達づくり、仲間づくり、担い手づくりを拓けよう。

行動目標:活動の担い手の発掘と育成を意識的に推し進める。

行動プラン:

- ①身近なちょっとした役割からステップアップできる役割を作り出す。
- ②新たな役割を設け、その担い手から次世代の役員育成につなげる。
- ③従来型の活動内容から切り替えることも担い手発掘の新境地。



平成27年福祉大会の様子

### 4. 住民の要望を行政に働きかけて、活力の生まれる地域として行こう。

(背景) 瀬谷第一地区が関係し、影響を受ける上瀬谷通信基地跡地の利用や瀬谷駅南口の再開発が動きを見せています。

こうした課題の解決は、地域住民の意向の尊重を基盤に据えて、対応してゆくことを目標の一つに掲げました。

また、地域の高齢化に対する諸課題の行政的改善等にも対応する方向を表しています。